

CSやってみよう!



裾野市教育委員会
学校教育課
令和3年12月16日

地域と学校が一体となって、子供を育てよう!

コミュニティ・スクール先行導入校で、地域と協働した取組が進んでいます。コミュニティ・スクールの効果として、「様々な人と関わりながら学ぶことで、子供たちの学びが豊かになること」や「地域ぐるみで子供を育てている安心感が生まれること」などがあります。

富岡第二小



「先生、見て見て!」「上手に書けたじゃん。」

書き初めの学習に、“地域の先生”が教えに来てくれました。いつもの書写とは違う文字の大きさ、筆の太さに子供たちは大苦戦。困っていると、すぐに近くに来てくれて、筆の運び方や文字の大きさのバランスなどをアドバイスしてくれます。時には、一緒に筆を持って教えてくれるなど、担任の先生も含め、一人一人にじっくりと関わることができ、子供たちも集中して取り組むことができました。書き上げた時には、「一枚目と比べて、はらいの所がうまくなったね。」などと褒めてもらえ、子供たちも満足気な表情が印象的でした。12月は、竹細工やお飾り作りなども、“地域の先生”が来てくれました。

「教えるって難しい。でも楽しい…。」

毎週月曜日の放課後に行っている「すそのん寺子屋」では、30人の子供たちを6人の“地域の先生”が見守ってくれています。子供たちからは、「家でやるより集中できるから、宿題をすぐに終わらせることができる。」「わからないところを教えてくれるから、勉強ができるようになった。」と大好評。

“地域の先生”の中には、大学生もいます。「中学生の頃に地域の方にお世話になったから、今度は地元に貢献したい。」「教えるのは難しいけど、子供たちが今日あったことを話してくれるのが嬉しい。」という声を聞かせてもらいました。

須山小



東小

登下校中に見守ってくれる地域の方が使う旗に、6年生の有志がメッセージやイラストをかくて渡しました。区長会長さんは、「子供たちの手作りの旗は思いが伝わる分、モチベーションが変わる。」「この旗を掲げてある家は、“かけこみ110番”の役割があることを全校のみんなに伝えてね。」と答えていました。東地区の子供と地域、お互いの思いが込められた旗が完成しました。



須山中

日頃から地区研修センターでサークル活動をしている総勢20人の方々が“地域の先生”となって、全校生徒が和 문화(抹茶、煎茶、お花)体験をしました。普段では味わうことのできない日本の伝統文化を知るとともに、作法や礼儀を学ぶこともでき、今後の生活に生かされる貴重な体験となりました。この体験をきっかけに、煎茶の魅力に気づき、習い続けている卒業生もいるそうです。

★今回の取材を通して、たくさんの“笑顔”に出会いました。子供も大人も楽しんで活動する姿が素敵でした。★